

## 平成 29 年度 第 3 回 総合事業サービスワーキンググループにおけるご意見

11 月 1 日に開催した「総合事業サービスワーキンググループ」において、委員の皆様よりいただいた主な意見は以下の通り。

### 神戸市の総合事業の課題と今後の方向性について

#### ○生活支援訪問サービスについて

- ・研修を受けるだけでは働くイメージを持つのは難しいので、説明会で直接、事業者から話を聞く機会をもつのは良いと思う。
- ・説明会では、仕事のやりがいや、どう役立つ仕事なのかを伝えられるとよいと思う。
- ・家の近所で空いた時間を活用できて、雇用されればなお良いといった方が受講生だとすると、エリアを絞った研修を複数実施する形であれば、近くの事業所とのマッチングも進むと思う。

#### ○住民主体訪問サービスについて

- ・サービスにつながりそうなケースもあったが、1割負担である生活支援訪問サービスなどと比べて自己負担が高いという理由で断られている。現在は、生活支援訪問サービスと提供内容に差がない中で自己負担が高いので、そのあたりも国に要望してほしい。
- ・他都市では、介護だけでなく、地域福祉と関連付けた事業を考えているところもある。

#### ○介護予防通所サービス

- ・週あたりの利用回数に応じた負担とするのは、わかりやすいと思う。
- ・要支援 2 の方の状態像は様々なので、必ずしもデイサービスに週 2 回通うことが自立に向けて必要とは限らず、医療ニーズもある。福祉用具や訪問看護も利用して、これまでは自費負担が出ていた方も、この見直しで使える単位数が増えることで、今後はプランの幅が増えるかもしれない。
- ・事業者として、自立支援に向けた努力は続けていきたい。年度終了後に市に目標設定・実績評価レポートを提出することになっており、効果検証もされると思うので、評価いただければと思う。今後の更なる見直しについては、総合事業は始まったばかりなので、来年いっぱいなど、状況を見て判断いただければと思う。

#### ○短期集中通所サービス

- ・対象者の状態のイメージがなく、「使い方がよくわからない」という声をきく。あんしんすこやかセンターで対象者をどう見つけていくかが課題だと思う。
- ・ある市の取組みでは、ショッピングモールを活用し、参加した後、買い物をして帰るなど、生活行為と結び付けることが出来ている。現在の教室型だけでなく、このような生活に直結するような内容があってもよいと思う。
- ・利用者もなぜ短期集中のサービスを利用しているか、なぜ専門職が関わって 3 ヶ月で卒業を目指すか共有できていないと感じる。
- ・短期集中は、従来のデイサービス事業所でやるべきことのようにも感じている。

## ○居場所づくり型一般介護予防事業

- ・NPO が共同で、全市の地域資源を調査したデータもあるので、この事業の周知に活用いただきたい。

## ○新たなサービスの検討

### 通所型サービス

- ・銭湯やフィットネスクラブを活用している市町村もある。
- ・団塊の世代の男性が通える場所というのが、これからは優先度が高いものになると思う。
- ・自分の好きなこと、楽しいことは続く。男性は何か縛られたり、強制されたりというのは嫌な方が多い。
- ・神戸らしさ、1年を通して、男女が楽しく、といったあたりがキーワードになってくるか。
- ・ラジオ体操であれば、年齢に関係なく参加可能で、コミュニケーションや安否確認の場にもなる。
- ・ウォーキングの距離に応じてスタンプを付与し、貯まると景品と交換する、なども考えられる。
- ・高齢者といっても 65 歳の方と 100 歳の方を考えると、同じ場所で同じ内容というのは、やはり合わない。
- ・現在実施されている多様な活動を、多様なまま、いかに制度にとりこめるか。声がかかればやりたいというところは、たくさんあると思う。

### 生活支援訪問サービス

#### (効果的なマッチング支援について)

- ・現場実習よりも少し長い期間をとって、インターンシップのように、働く前に誰かについて、教えてもらうような仕組みが良いのではないか。研修修了者が現場を知ってもらえたらよいと思う。

#### (受講者の確保について)

- ・家族介護のために勉強目的で研修を受けられた方が、家族を見送った後、介護の仕事について働くこともある。
- ・空いた時間に短く働くということであれば、子育て中の人もターゲットになるのではないか。スーパーなど、主婦層の目につくところに広報ができないか。